

総合的な学習の時間における情報教育の進め方

- 小学校編 -

情報教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものである。しかし、小学校においては、情報活用能力の育成を主目標とする教科がないため、「総合的な学習の時間」を中心に、各教科等の様々な時間において、コンピュータやインターネットなどの情報手段に慣れ親しませる学習活動が必要である。

1 「総合的な学習の時間」における情報教育の進め方

コンピュータやインターネット等を利用する学習を行う際には、子どもの中に情報格差(デジタルデバインド)が生じないようにする必要がある。

そのため、図1のように、まずその単元で必要となるコンピュータやインターネットに関する基本的なスキルの習得を目指した「情報」の時間を設け、子どもたち全員にコンピュータ等に慣れ親しませる学習が必要である。その後、課題を追究

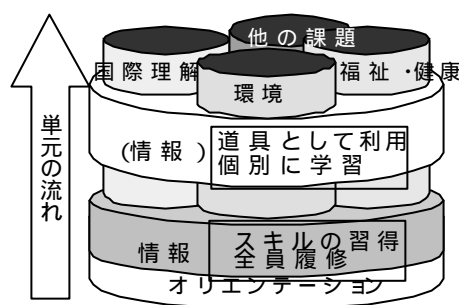


図1 情報教育を取り入れた単元の流れ(例)

コンピュータやインターネット等を様々な道具の一つとして利用することによって、学習に広がりと深まりをもたせる学習が望まれる。

具体的な指導事項については、各学校が学校や子どもたちの実態に応じて指導計画を作成することになっており、その際には、小・中・高の系統を踏まえた情報活用能力の育成を念頭に作成することが大切である。

表1に、小学校での「総合的な学習の時間」におけるコンピュータ等を中心とした学年ごとの指導目標例を示すので、各学校でも参考にして、「情報活用の実践力」を確実に身に付けさせる活動を実践していただきたい。なお、低学年でも、お絵かきソフトを利用し、絵をかいたり印刷したりするなどして、コンピュータに触れ慣れ親しむ活動が必要である。

表1 コンピュータ等を中心とした学年ごとの指導目標(例)

学年	指導目標
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラで撮影し、テレビ等につないで画像を表示することができる。 キーボードから、ローマ字で文字を入力し、詩などを書くことができる。また、それに合った絵等を挿入することができる。 リンク集等を利用して、インターネットで情報を収集し、必要な情報を印刷することができる。
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 検索エンジンを利用して、インターネットで自分に必要な情報を取り出し、ワープロソフト等を使って加工することができる。 自分たちが調べたことを、プレゼンテーションやホームページとして数枚にまとめ、リンクを張ることができる。 電子メールを使って簡単な質問等のメールを出したり、受け取ったりすることができる。

「情報」の時間は、基本的なスキルを身に付ける程度とし、他の課題を追究する中で個別に学習する時間を多く設定するとよい。また、学校の実態に応じて「朝の時間」や「業間の時間」等を活用し、継続的に「情報活用の実践力」を育成することも考えられる。